

第25回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会・学術大会

企業共催ランチョンセミナー2

開催日: 2015年6月4日(木)

時間: 12時30分~13時20分

会場: ベルサール神田 3階「Room1」第2会場

アンカースクリューを用いた顎変形症へのアプローチ ~外科的矯正歯科治療への応用の可能性と機能的診断の必要性について~

Approach to jaw deformity case using anchor screw

~ The possibility of the application to surgical orthodontic treatment and the necessity of functional diagnosis ~

We Make Smile

歯科矯正用アンカースクリュー

デュアル・トップ
オートスクリュー III



演者
大谷 淳二 先生
医療法人 丹心会
大谷歯科矯正歯科

2001年 愛知学院大学歯学部卒業
2005年 広島大学大学院
医歯薬学総合研究科修士歯学博士
2007年 広島大学大学院医歯薬学
総合研究科顎口腔顎頸部医学講座
矯正歯科分野助教
2013年 大谷歯科矯正歯科(松山市)開設

2009-2010年
University of California San Francisco (UCSF)
Center for Craniofacial Anomalies, 客員教授

2007年 AIOC Best Oral Presentation Award受賞
2009年 AIOC招待講演
2010年 JIOC, WIOC 招待講演
2011年 WIOC Best Poster Presentation Award受賞
2012年 WIOC招待講演



座長
西井 康先生
東京歯科大学
歯科矯正学講座

1986年 東京歯科大学卒業
2001年 博士号取得
2014年 東京歯科大学歯科矯正学講座講師

2007-2008南カリフォルニア大学客員講師
日本矯正歯科学会 認定医、専門医、指導医

2014年4月の保険改正により、厚労省指定の先天性疾病に対するアンカースクリューの応用が認可された。これにより、外科的矯正歯科治療の術前矯正治療において、従来困難であると考えられてきた歯の移動が可能となり、顎矯正手術の限界がより広がると考えられる。また、術後矯正においては、顎間ゴムの使用に対する固定源として利用することで顎位の安定をはかる補助となり、その後の歯の移動においても有用な固定源となる。さらに、動的治療終了後の後戻りに対するリカバリーにも応用可能であり、アンカースクリューは外科的矯正歯科治療の全てのステージにおいて有用なツールとなる可能性を有している。術前および術後矯正歯科治療にアンカースクリューを用いて歯の移動を行い、手術を併用して上下顎骨の位置改善を行う治療計画は、矯正歯科医が従来にも増して十分な精度を持った治療予測を行わなければならない。また、矯正歯科治療および顎切除術における各リスクファクターが相互に及ぼす影響について検討するために、治療計画立案過程において外科手術担当医と矯正歯科医との間でさらなるコミュニケーションが必要になると考えられる。現段階では、三次元的に歯や顎骨の移動の自由度が高くなるアンカースクリューを応用した治療体系は、治療後の安定性に対するデータが充分でないため、慎重な治療計画の立案はもとより、生体の順応性を考慮に入れた入念な術前診査が必要になる。

本セミナーでは、アンカースクリューの保険取扱いの経緯や保険算定方法等を概論としてお話しするとともに、今後、さらに増加すると推測されるアンカースクリューの植立依頼に対して、脱離や破折のない植立方法を確立するためのキーポイントをお示しします。また、アンカースクリューを使用することによる術前矯正歯科治療の拡がりとその限界について考察するとともに、術後新たに確立された顎顔面骨格の3次元的な形態変化が、下顎運動など機能的にも調和がとれたものであるか否かを考えるための診断方法についても提案したい。

今回は整理券配布を行いません
聴講ご希望の先生は、会場にお越しください

ProSeed

株式会社プロシード